



2020.3.5 No.141

【発行】秋田県PTA連合会
【事務局】秋田市山王中島町1番1号 秋田県生涯学習センター内
TEL(018)864-8975 FAX(018)824-7935
E-mail: pta-akita@helen.ocn.ne.jp
http://www.pta-akita.com

PTA あきた

～みんなで育てる 秋田の子ども～

令和元年度 ふれあい 事業



井川町立井川義務教育学校

親子で楽しむ お笑いライブ&キャリア講話



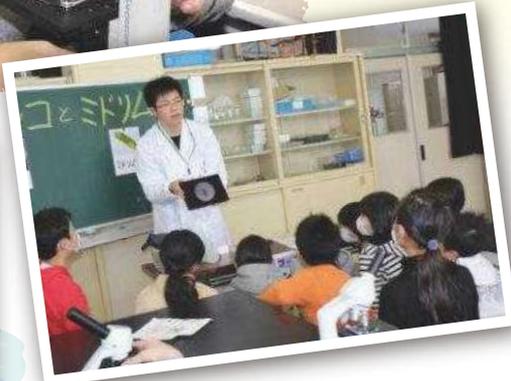
秋田市立川尻小学校

夢まつり



横手市立醍醐小学校

おもしろ理科実験講座



第45回秋田県PTA研究大会大仙大会

研修会

2019.10.19

テーマ:「笑顔の花を咲かせよう～子ども達と地域をつなぐPTAの役割～」
コーディネーター: 福原 尚虎 氏(株式会社TMO FMはなび局長)



地元のFM花火の福原と申します。限られた時間ですが、沢山お話しし、意見交換をし、思いをこの場で発表できるように心がけますのでご協力よろしくお願いします。
この時間は子どもたちと地域をつなぐPTAの役割、私たちと子どもたちそして地域をつなぐためにはどうしたら良いのかということ語り合います。

今日、皆さんとともに言葉について考えていきます。言葉というのは人間関係を作ります。人間関係から街、そして家庭と全部ですね。お互い意見、そして知恵を出し合っていたらいいと思います。

最初は、使ってはいけない言葉を皆さん考えていただきます。ご家庭でお子さんに使ってはいけない、使わないようにしているという言葉を話し合っていたらいいと思います。

「どうでもいい」

「なんとでもいいことは一つもない」その通りですね。子どもが一生涯懸命、今日あったこと自分の考えを話しているときに、「どうでもいい」「どっちでもいい」という言葉は使ってはいけない、この言葉は私たちと話す言葉ではないということです。

「比べる言葉」

「あの子が」「あの家は」「あの先生は」と否定的なことを子どもに伝えると、子どもも否定的な思いをします。子どもに対しては、その子の個性をほめてあげたほうが良いと意見が出ました。

「どうして」

子どもに向かって「どうしてできないの」と言った場合、出来ない理由は、どうしていいかわからないから出来ないって話です。「どうして」という言葉は、刺さります。

「あきらめる」

親子間の会話を打ち切る言葉です。話を打ち切ってしまったがために、子どもと向き合ってしまうことが出来なかったため、この「あきらめる」は言ってはいけないなと思いました。

「どうせ」

たった3文字ですけど強い言葉です。いろいろなものが壊れていくような気がします。「どうせ秋田だから」「どうせ田舎だから」…そんな

言葉を僕らは聞きながらここまで育ってきたんですね。

「知らない」、「関係ない」

言葉が出てきた段階でその会話が終了してしまう。さらに、その言葉を受けた人間が必ずといっていいほど不快感を覚えてしまう。親子のコミュニケーションは大事ということであれば、切り捨てるような言葉を使つてはいけないのではないかと思います。

続いては「使いたい言葉」私たちが子どもたちと繋がるために、毎日でもかけてあげたい言葉、というのを考えていただけますか。

「いいね」

1日に1回、些細なことでもほめて、ほめちぎるということで、この「いい」というのは笑顔が見える言葉というのでも出ました。そして「いいね」と言われて嫌になる人はいないと思います。

あえて使いたい言葉「どうでもいい」。

先程使いたくない言葉でエントリーされました。子どもが悩んで「あれ、どうしよう」と言っているときに、結果、悩んでいるよりもまずはやってみようという意味です。沖繩でいう「なんくるないさ」でしょうか。大丈夫、気にするなよという意味ですね。

第2位が、「あいさつ」と出してくれました。

あえて言葉で、この質問に、あいさつこそ必要なんだと…。

第1位です。

「ありがとう」

「ありがとう」という言葉は、家族の中だとなかなか言えていない。子どもが親からありがとうと言われたら、認められたと意欲的につながるし、次に何かやろうかなに結びついていく言葉ではないかと思う。家に帰って、「ありがとう」がどれだけ使われているか、考えたということですね。

言葉って本当に心から出ているものです。体でそう出してしまう言葉ってありますね。体調が悪かったり、更年期なども含めて、その体から出た言葉を心から出た言葉で溶かしていくということになるわけですね。

言葉というのは、本当に子どもの人生を左右することがありますし、皆さんも親、あるいは町の人そして学校の先生からもらった言葉で人生が変わったと思います。この言葉は使わない、この言葉は使う、などそれぞれ皆さんで分かち合うことは大切だと思います。

秋田の人間はとにかく秋田の悪い話をするのが得意です。人口が少ない、自殺者が多い、あれがダメだ、これがダメだという話をします。その言葉が子どもたちにしっかりと受け継がれて、それならばこの町を出て行かなければならないと決断してしまうわけですね。始まりは言葉だと思います。今は人間同士の会話でしたけど、秋田というこの町です。「他と違う」、今まで悪い意味で使っていたと思いますが、秋田は他と違うという良い言葉を子どもたちにかけてもらえたらと思います。

記念講演

2019.10.20

テーマ:「子どもの笑顔は地域のたから～マジックで咲かせる笑顔の花～」
 講師:ブラボー中谷氏(マジシャン)



なんで、秋田に居ながらにしていろいろな海外とかに行くマジシャンになったのかというと、趣味で空手をしていて、27歳の時、あごの骨を複雑骨折しました。ハイキックが当たり、ぐしゃぐしゃになり入院しました。

その時になんでこんなに子どもがいるのかなと思ったら小児科病棟だったんです。小児科病棟の中に歯科口腔外科があったんです。だから周りがみんな子どもです。私みたいにあごの骨を骨折した人が一人二人いるわけです。

私はそのようなケガをしまして、何が大変かということ、ご飯が食べられないんです。あごが使えないから流動食です。鼻から胃袋まで管を通して、カロリーメイトのようなものを流してやるんです。なので、食べ物の夢を見るんです。ラーメン…。カレーライスとかそんな夢ばかり。神経が切れて痛みは無かったです。あごはもう治りましたが、今も触っても感じないです。

手足は動くし、頭はちゃんと考えることが出来るし、そうしたらだんだん暇になってきて、周りを見たら目線を感じるんですよ。子どもがいっぱい窓から見ているんですね。なんだと思っていたら、ここは小児科なんだと気付いて…。そこで子どもを呼んで、マジックを見せたいんです。

病院って楽しいことがないので、体調悪いと食べるのも辛いです。ですから、ちょっとしたマジックがすごい盛り上がり、子どもたちに「おじさん、マジシャン？」なんて聞かれて、「んー、んだよ」って言ったら、そうしたら「今度はトランプでやって」と言うんですよ。「ちょっと今日は、あれだ…。しばらくやっていないから、思い出すから、明日またおいで…」と言って、うちのかみさんにマジックの本を買ってきてもらって、夜中に一生懸命練習したんですよ。

子どもたちは約束通り来るとですよ。そこで、「一枚引いてごらん」と言います。誰でも出来るのですが、見せたら子どもたちが「わっ、すげー」って。それからです。私の部屋がたまり場になってしまって、常時10人くらい部屋にいました。私も暇なのでいろいろ研究したんですよ。そういう入院生活でした。ある日、夜中に看護婦さんが点滴を取りかえに来て、どうも様子が

おかしいなと思ったら…
 「〇〇ちゃんが亡くなった」と。
 自分の子どものような感じで接していたので、聞いてすごいショックで…。
 「よし、プロマジシャン」になるってその時思って、なぜか、青くなってきた空を見て、決意したというか、練習もぜんぜん足りていなかったのですが、子どもたちは喜んで見てくれるわけですよ。
 「趣味程度のものじゃダメだ。プロマジシャンになる」って決めたいですね。

来たばかりの時は、5階の東病棟だったので、いつ窓から落ちるかわからないくらい落ち込んで、いつも下ばかり見ていたんですね。自分では気がつかないんですけど…。
 子どもたちが「落ちればダメだよ」「みんなで元気づけに行こう」って心配で来ていたようです。それを知ってから、愕然としまして、「いやー自分はなんてバカなんだ」って。自分ではマジックで子どもたちを元気付けようとしていたんだけど、子どもたちが逆に元気付けようとして「待っててね。今にすごいマジシャンになるからね」と言って退院しました。「今度は鳩を出すようにしてくるからね」って…。

自分の欲望だけでなく、人のためにとかあの子も喜ばせたいためにとか、かみさんを笑わせたいためにとか、被災地に行つて人のために元気付けるためにとか、こういうことを思いながら感謝しながら活動したら、マジックの大会だったり、マジックキャッスルに出たいと思っていたらお話しが来て、1週間公演しました。そういうのって、本当に不思議な力が働くんですね。

「人のために」と「感謝」、それを忘れないようにしているのと、あとは、今回のタイトルですが、笑顔ですね。これは本当に、子どもたちの笑顔になっていますが、みなさん大人の方々の笑顔です。

歳をとると何も悪気はないのに顔の表情が一番楽な状態にするそうです。無表情に…。それが鏡を見ると驚くくらい変な顔に…。表情筋を鍛えて口角を上げる意識をしないと、悪気はないのに「この人機嫌悪い」と思われる可能性があります。頑張つて口角をあげる。その時に、この一番出っ張っているところをグリグリする。そうすると、その表情筋が柔らかくなって、朝一番でも笑いやすくなるんです。朝、鏡を見てグリグリとして、それから化粧をしてください。

皆さんが笑顔にならないと子どもたちを笑顔にすることはできない。
 親が朝からムスツとして「早くしなさい」「遅刻するよ」とかいろいろ言いたいことはあるけど、そうではなくて頑張つて笑顔で行動してください。
 ご家庭で親がまず朝からニコニコする。難しいけど、朝起きたら鏡を見て笑うんですよ。そのまま笑っていれば子どもには良いと思います。笑顔は伝染しますので、不機嫌も伝染しちゃいますので、親が不機嫌だと子どもも絶対不機嫌になって、ケンカになったり、いじめに発展する場合があります。親も親で不機嫌なまま車を運転したらあおり運転とかになっちゃいます。そうならないように余裕を持って笑顔で頑張ってください。

第67回日本PTA全国研究大会兵庫大会に参加して

～被災地に恩送りを見る～

仙北市立角館中学校PTA副会長 藤原 翼



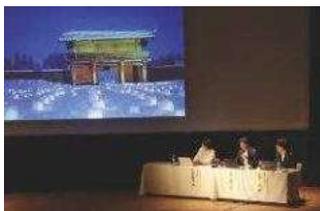
令和元年度8月23、24日に兵庫県で開催された全国大会に参加してきました。「つなげよう『いのち』のバトン、次世代を生き抜く子どもたちへ」をスローガンに、初日は全県各地で10の分科会、2日目は神戸市で全体会が行われました。私は「防災教育」をテーマにした第6分科会に参加しました。阪神淡路大震災からまもなく25年が過ぎようとしている今、毎年のように起こる災害にPTAとして何が出来るのか、また被災した経験を子どもたちにどう伝えていくべきかを討議しました。姫路市教育委員会の学校災害対応マニュアルの作成や、小中学校での実際の取り組みについての発表を聞き、防災に対する意識の高さが伝わってきました。その中でも特に白鷺小中学校の取り組みに感動しました。阪神淡路大震災は私が小学校5年生のときに起きました。つまり小中学生の時に被災した方々が今その親世代であると言う事です。自身の経験をもとに今被災した子どもたちが何を必要としているのか、何を求めているかを考え、東日本大震災の時も子どもたちを主体にボランティア活動を行なっています。もちろん今の子どもたちは被災経験はありませんが親や身近な人たちから生の話を聞き、同じように今自分にできることを考えているように感じました。またPTA会員の皆さんも自分が被災した時にたくさんの人から助けていただいた事を恩返ししたいと思っているように感じました。だとするならばきっと東日本大震災で被災した子どもたちも同じように、いつか誰かを助けてあげられるんじゃないか、助けてあげたいと思うんじゃないかと思います。こんな素晴らしい恩送りがあるのでしょうか。そして私たちも同じPTA会員として形や目的は違ってもこのような活動ができるんだと勇気をもらえた気持ちでした。

私の持論ですが、PTA活動は種を撒くようなものだと思います。自分がもらった恩や知識、愛を次の世代へ伝え繋いでいく事だと考えています。いつか自分が撒いた種がより大きく実る様に、たくさんの人たちと出会い、色々な話を聞いて学ぶことが大切だと思います。今回の大会も大変得るものが多い大会でした。来年度は富山県での開催です。皆さんもぜひ全国のPTA会員の方々とともに学びに行きませんか？次世代により良い「恩送り」という種を撒くために…

第51回日本PTA東北ブロックPTA研究大会

南陽・東置賜大会に参加して

秋田県PTA連合会副会長 笠原 基嗣



令和元年9月7日、8日の2日間にかけて、東北ブロックPTA協議会と山形県PTA連合会主催による、第51回東北ブロックPTA研究大会が開催されました。会場は山形県南陽市と東置賜市です。参加者は東北ブロックPTA会員並びに関係者約1800名。PTAがいま求められていることを研究し、子どもたちや国の発展のために寄与することを目的とした大会です。私は第3分科会『地域連携』でパネリストを務めさせていただきました。この2日間で学んだこと、感じたことをご紹介します。

私が参加した第3分科会『地域連携』では、秋田県、山形県、福島県のパネリストが事例発表とディスカッションを行いました。各地域ともに伝統や文化の違いはあっても、子どもたちに“ふるさと”をより良く知ってもらうために一生懸命取り組んでいることがわかりました。“ふるさと”を想う心は、子どもたちが大人になってからも、自分を大切に生きていくための重要な要素になるのだそうです。

それから、全体会議では、デヴィ・スカルノ夫人の講演を聴くことができました。内容はとても素晴らしいもので、華やかな社交界に身を置きながらも、懸命に我が子を慈しみ愛情を注いだエピソードには、会場中が涙していました。

今、子どもたちを取り巻く環境は複雑化し、多くの課題や問題点が指摘されているそうです。このような環境の中で私たちPTAの果たすべき役割と期待は益々高まっています。山形県PTA連合会では、地域の偉人：結城豊太郎翁が残した「ふるさととは国の本なり」という言葉を大会主題に掲げました。これは、一人ひとりが立派な“ふるさと”を作ることにより、国全体が収まるという意味だそうです。このような時代だからこそ、私たちの“ふるさと”を、次代を担う子どもたちに教え、育み、ともに成長していくことが大切なのだと思います。そして、私たちPTAが、家庭、学校、地域をつなぐ架け橋となることが求められているのだと感じました。

文部科学大臣表彰

4つの柱

仙北市立神代中学校PTA会長 平岡 太一



私たち神代中学校PTAは、この度、優良PTA文部科学大臣表彰という大変名誉ある表彰をいただくことができました。

私自身は神代中学校のPTA会長を務めさせていただいて3年目となりますが、今回の受賞は、

神代中学校PTAに受け継がれてきた長年の活動を評価していただいたものです。

これまで活動に関わってこられた会員の皆さまのご尽力、地域の皆さまのご協力に対し、心から敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

神代中学校PTAの主な活動として、登下校時の街頭指導や、地域の危険箇所点検等の生徒の安全に関わる活動のほか、生徒会との連携・協働による四季のボランティア活動があります。

地域の環境を保全する「地域清掃活動」、高齢者施設へ車いす等を寄贈し活用していただく「ブルタブアルミ缶回収」、地域が誇る景勝地を大切にする「抱返り溪谷クリーンアップ」、高齢者や体の不自由な方を支援する「除雪ボランティア」の4つの活動は、神代中学校の「4つの柱」の活動として生徒たちに浸透しています。

また、これらの活動は地域の皆さまのご協力をいただきながら実施しているため、学校と地域の交流の場としての役割も果たしており、地域の活力にもつながっていると感じています。

地域住民のための活動に参加することが当たり前のように定着しており、これまで活動を継続してこられた先輩方の功績を改めて実感しています。

いま、神代中学校では少子化による生徒の減少が進んでいますが、PTA活動においても、会員の減少をはじめとする様々な変化への対応力を持つていくため、地域との連携が重要になると思います。今回の受賞を励みとし、地域との連携の礎となる活動を大切に、より一層学校と地域の相互の貢献が深まっていくような活動にしていきたいと思ひます。

今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

おらほの学校

北秋田市立鷹巣東小学校PTA会長 金澤 啓司



私たち鷹巣東小学校PTAは、本年度、優良PTA文部科学大臣表彰をいただくことができました。そして、同年本校は創立140周年を迎え、節目に栄えある賞をいただきましたことは、これまで東小学校に携わってき

ました、先輩方や地域の皆さまをはじめ多くの方々感謝いたしますとともに、皆さまのお力添えが今回の受賞につながっていることを感じます。

鷹巣東小学校は、『青い山なみ、澄んだ空 広い稲田につつまれて』の歌詞で始まる校歌にある風景の中、昨年度、地域全体を巻き込んで行った『防災キャンプ』をはじめ、本校のすぐ側を流れている米代川を利用した『手作りのいかだ下り』、地域の皆さまに温かい気持ちと元気を届ける活動『地域あったかプロジェクト』、そして鷹巣東小学校といえば、何十年も変わらない花壇づくりと学校田、畑作業等の『労作教育』と様々な行事や体験活動が行われておりますが、そこには保護者だけではなく、いつでも地域の皆さまのご協力がありました。

私事で恐縮ですが、今年度からPTA会長を務めさせていただいております。思いがけず私の父と親子2代で本校のPTA会長を務めることになりました。その当時からの地域の皆さまが学校に対しての協力体制ができていたことを強く感じる事が出来ました。

これまで、長年に渡り鷹巣東小学校の活動を快く引き受けて頂いた、保護者を始め地域の皆さまに対して、PTAを代表して改めて感謝申し上げます。

今回の授賞は、鷹巣東小学校において令和元年度、創立140周年という大きな節目に巡りあった、ありがたいご縁であります。これを機縁として、私たち現役PTAも力を合わせて、地域の皆さまと共に、子どもたちの未来のために努力していきたいと思ひます。

今後も『おらほの学校』として、学校・地域・PTAの連携を今以上に密にして活動して参りたいと存じます。今後とも本校PTAにご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和元年度 表彰一覧

令和元年度 優良PTA文部科学大臣表彰

- ・北秋田市立鷹巣東小学校PTA
- ・仙北市立神代中学校PTA

令和元年度 公益社団法人日本PTA全国協議会 会長表彰

- (団体)
- ・能代市立二ツ井中学校PTA
- ・秋田市立御所野小学校PTA
- (個人)
- ・佐々木正義 / 秋田県PTA連合会 副会長
- ・阿部 隆志 / 第50回東北ブロック研究大会秋田大会 副実行委員長
- ・奈良 毅 / 第50回東北ブロック研究大会秋田大会 副実行委員長
- ・芦原 真澄 / 秋田県PTA連合会 元委員

令和元年度 東北ブロックPTA協議会 表彰一覧

- (感謝状)
- ・高橋 智弘 / 秋田県PTA連合会 前事務局長
- (団体)
- ・鹿角市立花輪北小学校PTA
- ・秋田市立八橋小学校PTA
- ・男鹿市立男鹿南中学校PTA
- ・秋田市立土崎中学校PTA
- ・秋田市立日新小学校PTA
- ・仙北市立中川小学校PTA
- (個人)
- ・佐藤 周 / 大館・北秋田PTA連合会 前会長
- ・佐々木正義 / 能代市山本郡PTA連合会 会長
- ・森川 洋平 / 八郎潟町立八郎潟中学校PTA 会長
- ・笠原 基嗣 / 大仙市PTA連合会 会長
- ・齊藤 勇人 / 横手市立横手明峰中学校PTA 前会長
- ・菅 幸司 / 湯沢雄勝PTA連合会 前会長

教育懇談会

1月20日(月)、秋田県教育委員会の米田進教育長をはじめ、中山恭幸生涯学習課長のほか各課関係職員の方々からご出席をいただき「教育懇談会」を開催いたしました。米田教育長からは「子どもたちの健やかな成長、人格の形成を図っていくためには、学校の中の教育だけではもう十分ではない、家庭そして地域の方々と学校とが連携していく時代である。PTA連合会の役割は重要であり大切だ。また、本県の子供たちは、学力、体力においても全国的にも優れた結果を示しており、各方面から高い評価を得ている。」などのお話がありました。質問事項には、各課から丁寧な説明をいただき、有意義な会となりました。



(1) 教職員の働き方改革について

今現在、教員として何を優先して行わなければならないのか、教育現場においてどのような取り組みをしていくのか。働き方改革を行った先の目指す教員像、教育現場について前述の問題を含めてお話しを願います。

○教育委員会

義務教育課が取り組んでいるのは、「多忙化」の解消と「多忙感」の解消です。「多忙化」につきましては、まずは時間です。文部科学省からは上限ガイドラインというのが出まっています。これを指針として、より厳格なものになる予定です。校長先生のリーダーシップをもとに、改革が進んでいくと捉えています。一方でこれ以上何を削ればいいのか、削減するにもこれ以上何をすればいいのかという意見もあります。行政としてはサポート体制の充実、スクールサポートスタッフとか、先生たちの数もあります。そこをいかに支援するかということを取り組んでいるところです。「多忙感」ですが、これはいわゆるマネジメントだと思います。校長先生方がいかに先生たちにやりがいを持たせて、多少大変なことがあっても成就感、達成感として感じられる、そういった流れを汲んで、最終的には子どもたちに繋げていければいいのかなと思っています。

○教育委員会

本県におけるコミュニティスクールの導入率ですが、東北では最も高い数値となっております。地元へのさきがけ新聞さんでも大きく取り上げていただき、地域とともにある学校というのが受け入れられているのかなと思います。

各学校で取り組み方に差があるのではないかという指摘について、学校、現場の方で教職員の方にも理解が広まりつつあり、成熟にいたる途中段階の制度であると思います。画一的に運用できる制度ではないので、事例を自分の学校に持ってきて当てはめようというところではないので、ご理解いただきたいと思います。教育委員会としては、各学校に応じて、CSの運営体制を支援するというところで、取り組んでおりますのでこういった制度を活用しながら各学校や、地域の実態に効果的に取り組んでいただきたいと思います。

●PTA

勤務時間管理簿という管理簿をつけて、残業時間を管理するということが習慣になりました。それによって先生方も意識が変わってきましたので、少しずつ浸透してきたかなと思っています。

●PTA

中学校でも大分意識は高まっておりますが、子どもを手厚く教育をするという部分においては、質は落とせないということはありません。それを理解した上で何が出来るかというのを先生方は真剣に考えて、短時間で最大限の効果が上がるように工夫しています。改革を進める意識は高まっていますが、それに先生方の資質や能力も伴わないと無理じゃないかなと思っています。

●PTA

教職員の質の向上というのが仕事の効率化であっては保護者からすれば不安です。先生たちに、何に時間を割かなければいけない、何について時間はこう使った方がいいと、しっかりと分けてお話を示して指示、指導していただきたいという思いです。

○教育委員会

おっしゃる通りだと思います。例えば、休憩時間ですが、調査をすると実際はほとんど取れていないです。このままで決して良いわけではないのですが、子どもと向き合っている時間はすごく大事です。先生は、休憩時間だからと表示するというのは考えられません。子どもは来ます。では、どのように工夫していったらいいか。私は選択と集中しかないかと考えています。保護者と、地域とも話し合いの場を持ち、これは残す、削減するなどしていかないと先生方にもゆとりが生まれてこないとなりますし、子どもたちにも十分に対応できなくなるので、学校として取り組んでいかなければいけないと思っています。

●PTA

ありがとうございます。子どもたちのためにどうすればいいかということを考えて皆さんやられていまして、PTAとしてもどこに携わっていけるか、トータル的に見ていただければなと思っています。

(2) 「スポーツ立県あきた」における部活動指導体制について

国内のスポーツはプロ化が進み、子ども達も目指す目標が高くなるにつれ、よりレベルの高い指導者を求めています。そのため、クラブチーム等に所属するケースも増えてきていますが、部活動との両立は原則できないようになってきています。クラブチームを選択すれば、学校の名前を背負って大会には出場できないのです。スポーツ立県を掲げる秋田県において、部活動に外部指導者を招聘し、クラブチームに頼らないようにできないでしょうか。

○教育委員会

部活動の指導体制について、中学校の現状について申し上げますと、少子化ともないうちで生徒数が減少しており、単独校では試合に出られないとか、生徒のニーズにこたえない部活がないといった現状がございます。また、合同で試合に参加するチームも年々増えてきています。しかし、クラブチームに在籍している生徒が学校の部活動と両立できないという制約があるということも事実です。また、学校の部活に所属している生徒とクラブチームに所属している生徒が学校の中に混在しているような現状もございまして、中体連の大会には学校の部活に所属している生徒は出られない、クラブチームの生徒は例えば土日の大会は自分で親の引率、クラブチーム引率などで出なければならないのが現状です。

平成30年8月に県教育委員会でも運動部活動運営指導の手引きというものを策定しております。その中でも地域人材の活用というのを推進しております。述べ514名の外部指導者の方に協力いただいております。また、秋田県は今年度から文部科学省の委託事業であります「運動部活動指導員配置事業」を活用しております。秋田市と由利本荘市で21名を配置しており、成果と課題を編集しつつ来年度は増員を要望中でございます。生涯にわたって子どもたちがスポーツに関わっていく基盤の運動部活動は大変大切と考えておりますので、学校・地域、また種目によっていろいろなケースがございますけど、多様な形で最適にこれからは部活動が実施されていくことを目指していきたいと考えております。

●PTA

外部指導者について、学校の顧問の先生の代わりに務まるような指導者でおかつそれが県の教育委員会の方から補助が出てやっているという指導者なのではないですか。

○教育委員会

外部指導者は顧問の代わりではないです。具体的に言いますと、顧問がいなくて生徒を引率、大会に出場することは出来ないうです。

(3) 若手教員の育成について

全国学力・学習状況調査において、毎年好成績を収めている秋田県ですが、それを支えているのは優秀な教員であると考えております。団塊の世代の教員が続々と退職し、ベテランの教員が減っていき、教員数を減らしながらも経験の少ない若い教員を新たに採用しなければなりません。教員の質を確保するには3倍が必要であるといわれています。現在の秋田の教員採用における現状と教員の育成、また就職先として魅力ある教職現場をどのように考えているのかをお聞かせください。

○教育委員会

教員採用について私たちが一番危機感を持っているのは、受験者数であります。昨年度は小学校が304、今年度271、中学校は昨年度365、今年度340というふうにごうごうと他県教員採用とか大学推薦枠等いろいろな方法を設けていても減ってきているというところに危機感を持っています。今取り組んでいるのが、受験年齢の制限を撤廃したことです。小学校教員については大学推薦特別選考を拡充、あと他県教諭の一次試験を面接のみにしています。一方で、秋田県で講師をやっている先生については、中身は検定中ですが、経験に応じて一次試験を免除するというメッセージをすでに送っています。

次に育成についてです。昨年度までは、初任の先生に対して1対1で教えるという形でしたが、学校全体で研修するという形に切り替えています。これからの課題は、ミドルリーダーです。学校の経営を担うためにどういった研修をしたらいいのかというのを私たち行政としても取り組んでいきたいと思っています。

●PTA

若い先生がくることややり気を持って、みんなで育てていくためには自分の失敗例を話をしながら肩の力を抜いてもらうように迎えています。その先生が一番相談しやすい人は誰かと聞いて、その人の指導教員を決めてもらうということもしています。

●PTA

私は大変頼もしいなと思っています。彼の先生を頼っているところもありますが、一生懸命やっているとします。最近では意欲高く、どんどん吸収しようとする姿勢がみられます。ただ、もっと専門的な勉強をしたいという若い先生がいました。中学校ではやはり専門的な知識といいますが、そういうものが生命線なので、そういうものを保障してあげたいと…。気になることです。

●PTA

年々募集に手をあげてくださる方が少なくなっているということですが、テレビ等で見られる「大変な仕事」という影響が強いのでしょうか。その他にも何かしらの要因とかあるのでしょうか。

○教育委員会

残念なことが、マスコミの方々が先生たちをいい形で取り上げてくださっていません。そこは私たちが行政としてメッセージを送っていかなければいけないなと思っています。私たちが秋田県の先生に是非なってほしいと発信しています。東北の各大学を回ってPRもしています。事務所も動いていますが、他の各県も同じ状況です。獲得のために秋田県の魅力を強調していこうと思っています。

郡市 PTA だより

かつの

●PTA活動の活性化を図るために



「鹿角のPTA活動を考える会」は、子どもたちの健全育成に向けた家庭および地域の役割について考え、郷土への愛着を深める場として、お互いの事業の相乗効果を高める目的で今年、青少年育成市民会議「青少年を育てる市民のつどい」との共催で実施しました。中学生による「わたしの主張発表」、比内支援学校かつの校 山本大広さんによる事例発表「鹿角戦隊『リンゴレンジャー』～これまでの活動報告～」、県生涯学習センター 柏木 睦さんによる講演「スマホ時代の子育て～子どもたちとインターネットの関わり方」、江差追分全国大会少年の部で優勝に輝いた生徒を含む市内中学生3名による民謡披露といった内容で好評のうちに終えました。会員数も減少し、PTA活動の現状を踏まえると、共催といった取り組みに一石を投じる事業になったと思います。

来年度は県PTA研究大会かつの大会が開催されます。多くの会員の皆様のご参加を"かP連一同"お待ちいたしております。

大館北秋田

●地域の将来を担う 子どもたちの育成に向けて



本連合会は、9月21日(土)、上小阿仁村立上小阿仁小中学校を会場に、「大館・北秋田PTA連合会研修会」を開催しました。前半は、長年にわたって地域のPTAの活性化、発展に寄与された38名の方々の表彰を行いました。後半の研修会では、牧師としてプライダール、カウンセリング、講演、セミナー講師等で地域に仕え、PTA会長や県PTA副会長を務めたファミリーネットワーク代表の村岡昇氏より「地域の将来を担う子どもたちの育成に向けて～学校・家庭・地域の連携～」と題した講演をしていただきました。村岡氏は、小中学校での「ココロの授業」や秋田刑務所の教諭師、人権擁護委員等としての経験を基に子どもたちの現状を紹介し、大人ができることを具体的に提案してくださいました。参加者からは、「子育てについて改めて考えさせられた」「子どもたちの目標となれるようにしたい」等多くの感想が寄せられ、大好評で終わることができました。

能代山本

●能代市山本郡PTA連合会研修会



今年度、能代市山本郡PTA連合会の研修会等については、教育専門監として、ご活躍されている能代支援学校にお勤めの小笠原栄紀(えいき)先生をお招きし、「子どもが自分らしく生きられるための大人の関わり方」と題し、講演会を開催しました。「教育専門監」とは、「子どもたちの味方」と言う立場から、子ども本人や、子どもに関わっている保護者、学校の先生たちの相談役を務めることという、先生ご自身のお言葉のとおり、お話していただく内容ひとつひとつに、子どもたちの気持ちを想う気持ちが溢れていて、とても心温まる思いでした。先生からのお話を通して、自分の子どもだけでなく、まわりの子どもたちの見方や考え方を改めてとらえ直す良い機会となりました。開催にあたっては、先生方をはじめ、PTA連合会・母親委員会の役員の方を中心に、ご協力いただきました。皆様に感謝するとともに、子どもたちのより良い生活環境作りのため、団結して協力することの大切さも学ぶ良い機会となりました。

潟上南秋田

●ラグビー体験「親子で楽しむ タグラグビー」

今年度の潟南PTA連合会の研修会は、12月21日(土)八郎潟町町民体育館を会場に、秋田ノーザンブレッツ9名の選手を招いて、ラグビー体験を行いました。当日は、小・中学生を含む約70名の参加者があり、ラグビーボールやタグを使って運動しました。

はじめに、3人で手をつなぎタッチされないように一人をデフェンスしたり、ラグビーボールをパスしてリレーしたりしていくうちに、参加者の硬さがとれ笑顔が出て、和気あいあいな雰囲気になっていきました。そして、タックルやラインアウトを体験することができました。親子で体を動かしながら、ラグビーにふれ楽しく活動することができました。

参加した皆さんからは、「改めてラグビー選手のすごさを知りました。」「自分もラグビーを頑張っていきたいです。」「子どもと楽しく体を動かすことができました。ぜひ試合を見に行きたいです。」などの声が聞かれました。



男鹿市

●新しい市P連合会メンバーで良いスタートを切る!

今年度、男鹿市P連で取り組んだ新しい事業として、5月の総会の前段で「新任役員研修会」を開催したことが挙げられます。この研修会は、新任男鹿市P連役員、及び新PTA会長を対象に行ったものです。

今年度が始まると、各PTA組織内で役員改選が行われ、メンバーの多くが変わってしまいます。新任役員として「いつ、なにを、どのように?」と悩んでしまうことが多いと思われそうですが、その不安を解消し年間の見通しをもつことができればと、研修会を計画してみました。当日は、仙台市PTA協議会が発行しているハンドブックを参考にして、PTA活動について読み合わせをしたり、新旧役員が混じってグループを作り、役割分担や情報交換をしたりしました。時間が経過するにつれ緊張した顔もほころび、話が弾んでいきました。今までの面白おかしいエピソードを披露する頃には和気あいあいとなり、これにより和やかな雰囲気の中、新しいメンバーで市P連合会をスタートさせることができました。



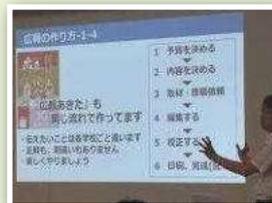
秋田市 ●「学校愛(PTA愛)」をこめて会報を作ろう!

令和元年度最初の事業として、6月10日に秋田市内小中学校PTAで会報作りに携わる会員を対象に、秋田市企画財政部広報広聴課の奈良毅氏を講師に迎え「会報の作り方研修会」を開催いたしました。「広報あきた」を発行している立場から、そして前年度までPTA会長を務めPTAを知る立場から、どのようにして会報を作っていくかをお話ししていただきました。

会報の内容の決め方、視線移動も考えた記事の配置の仕方、記事のメリハリのつけ方などポイントをおさえた講習で、最後にはカメラの使い方のレクチャーもあり、大変勉強になるものでした。

会報の内容を決めるうえで一番大事なこと「学校愛(PTA愛)」
大好きな学校をもっと知って欲しい
(大好きなPTAをもっと知って欲しい)

各PTAで「学校愛(PTA愛)」を心に、素晴らしい会報を作っていって欲しいと思います。



由利本荘市

●由利本荘市PTA連合会研究集会 矢島地区大会

由利本荘市PTA連合会では2年に1度地区の持ち回りで研究集会を開催しています。今回は県PTA研究大会由利本荘市大会と重なったために、地区担当による研究集会は4年ぶりということになりました。

研究集会は11月17日、150名を超える参加者を得て開かれました。メインは筑波大学教授 徳田克己氏の「子どもの心を強くする子育ての秘訣」と題する講演でした。

講演に先立ちアトラクションとして、矢島中学生による全校剣道の披露がありました。

その後の講演では、海外の貧困地域での子どもたちの様子や障害をもつ子どもは過程を評価してあげることで伸びていくのだということ、褒めてあげることの大切さなど、これまでのご経験を踏まえたお話をいただき、大変よい勉強になりました。



にかほ市

●にかほ市PTA講演会

にかほ市PTA連合会では、毎年、研修事業部で講演会を計画して実施しています。今年度は10月に金浦小学校を会場として、冒険家阿部雅龍氏を迎え「人生を選択して生きる～冒険家という生き方」と題して講演していただきました。

阿部氏は、昨年1月に長年の夢を叶え南極点に到達し、11月からは「白瀬ルート」の単独徒歩行に世界で初めて挑戦するそうです。聴衆は、金浦小学校・中学校の生徒たちと市民たちで、プロジェクターで実際の探険の様子画像を見ながら、何事も諦めない気持ちの大切さを教えていただきました。

本行事は、例年市民を対象に行っていましたが、毎年担当校が人集めに大変苦労しておりました。そんな苦労をなくすため、昨年度と今年度は学校行事とタイアップして、生徒たちを聴衆の中心にして聴衆の確保を図るというアイデアで行っています。



大仙市

●咲かせよう笑顔の花 届けよう子どもたちに

令和元年10月19日、20日の両日にわたり第45回秋田県PTA研究大会大仙大会が開催されました。1日目は、FMはなび放送局長福原尚虎氏をコーディネーターとして、子どもたちが笑顔でいられるためにかけたい言葉、かけたくない言葉を会場一体となって研修しました。和やかな雰囲気の中、活発な意見交換と発表がありました。2日目は地元の小中学生によるアトラクションを開催。太鼓やよさこい演舞の迫力あるステージに会場も大いに盛り上がりました。基調講演では秋田県在住のマジシャン、ブラボー中谷氏に笑顔の大切さについて、マジックやジョークを交えながら講演していただきました。実体験を基に、子どもたちに対する自身の思いや



願いを綴った内容には会場が感動に包まれました。2日間合わせて100名近くのスタッフ、大会参加者は550名を超えました。参加者された方からのアンケートも好評で、素晴らしい大会を行うことができました。

仙北市

●児童相談所の現状を知る

仙北市立神代中学校を会場に仙北市PTA連合会研修会を開催しました。南児童相談所の伊藤毅氏をお迎えし「子どもに関する相談の現状や特徴、子ども達を取り巻く状況等について」と題し、講演会と質疑応答を行いました。昨年1月には野田小4女児虐待事件が明るみになりました。小学校のアンケートの回答から児童相談所が児童を一時保護していたものの、自宅へ戻したことが引き金になりました。学校とPTA、教委、児相の適切な連携が課題です。今回の講演会を通して全国の児童虐待相談件数は平成10年以降右肩上がりで推移し、秋田県でも同じ傾向にあることが分かりました。そして、令和元年の児童福祉法・児童虐待防止法改正では、「親の体罰禁止」が明文化されたことを教えていただきました。また、保護者が元気になることや子どもの頑張りを認めること、話を聞くこと、叱るときポイントを教えてくださいなど有意義な研修会となりました。



「親の体罰禁止」が明文化されたことを教えていただきました。また、保護者が元気になることや子どもの頑張りを認めること、話を聞くこと、叱るときポイントを教えてくださいなど有意義な研修会となりました。

美郷町 ●阿部雅龍氏の講演に学ぶ

本町PTA連合会では、毎年、町生涯学習課と共催しながら講演会を行っています。今年度も六郷小学校と仙南小学校で予定されていましたが、それとは別に、美郷中学校と共催しての講演会が実施されました。講演会講師は、秋田市出身の極地冒険家である阿部雅龍氏でした。阿部氏は、徒歩や自転車、いかだなど、全て自力(人力)単独による極地到達



(踏破)で有名な方です。当日は、「一度きりの人生—好きを生きる—」という演題で、美郷中学校の全校生徒と連合会会員の保護者に対し、約1時間の講演をしていただきました。冒険を始めたきっかけの一つが、「弱い自分が嫌いで克服するため」だったことや、仲間になるには同じものを食べたりよいところを見つけて声をかけたりするとよいことの話がありました。また、「信じれば道はある」「夢を忘れなければ叶えられる」というような教訓となる言葉もたくさんいただきました。熱い心で挑戦し続ける阿部氏の講演は、保護者にとっても生徒にとっても魅力あふれる内容で、学ぶことの多い時間となりました。

(踏破)で有名な方です。

当日は、「一度きりの人生—好きを生きる—」という演題で、美郷中学校の全校生徒と連合会会員の保護者に対し、約1時間の講演をしていただきました。冒険を始めたきっかけの一つが、「弱い自分が嫌いで克服するため」だったことや、仲間になるには同じものを食べたりよいところを見つけて声をかけたりするとよいことの話がありました。また、「信じれば道はある」「夢を忘れなければ叶えられる」というような教訓となる言葉もたくさんいただきました。熱い心で挑戦し続ける阿部氏の講演は、保護者にとっても生徒にとっても魅力あふれる内容で、学ぶことの多い時間となりました。

横手市

●盛り上がりを実感した研究集会

今年度「横手市PTA連合会研究集会—ははおや・ちちおや研修会2019—」が2年ぶりに開催されました。本研究集会は、横手市PTA連合会の中心事業であり、「たくましくすこやかに心と体」を研究テーマとし、全役員の力を結集して11月最終土曜日に実施されました。

「例年、講演会の内容は専門的なものが多く、保護者としてなかなか身近に感じにくかった」という提言をもとに、数度の役員会や全体会で検討した結果、スクールソーシャルワーカーの小田島容子先生を講師に招き、講演をしていただくことになりました。「親と子の良好な関係づくり～子育てにあたって大切にしたいこと～」を演題に、子育てに関わる事例の紹介と、みんなで共有する子育てのあり方等を、豊富な経験から語っていただきました。会場の200名近い会員が、自らの子育てと重ね合わせながら、熱心に聞き入っていました。

このほか、横手市家庭教育支援チーム「どんぐりすのもり」の活動報告も紹介されるなど、充実した研究集会となりました。



湯沢雄勝

●命の授業 ～ドリー夢メーカーと今を生きる～

今年度、湯沢雄勝PTA連合会の研究集会は、湯沢市役所健康対策課との共催で、株式会社「命の授業」腰塚勇人氏を講師に招き「令和元年度湯沢市自殺予防講演会 兼 第70回湯沢雄勝PTA連合会研究集会」という形で講演会を開催しました。

働き盛り世代の小中学生の保護者に聞いてほしいとの行政側の願いと、全国各地の学校で講演実績のある著名な講師による講演が拜聴できるという郡市PTA連合会の利点が一一致したことで、PTAの共催が実現しました。講師との渉外・送迎・接待、会場準備等は行政側が行いました。案内チラシ配布、参加者取りまとめ、看板・垂れ幕作成等はPTA側で、受付や駐車場係は両者で協力して行うことにより、310名の参加者一人一人が誰かの「ドリー夢メーカー」になり、「口は人を励ます言葉や感謝の言葉を使うために使おう」をはじめとする「5つの誓い」を守ることに賛同しました。





メモリアル ページ

今年度をもってPTA活動の区切り(閉校)となる学校があります。

- ① 創立年月日
- ② 児童・生徒数
- ③ PTA会長名
- ④ 校歌



鹿角市立花輪第二中学校



① 昭和22年4月1日
② 61名
③ 児玉 健司

作詞 工藤 壽夫
作曲

鹿角の里の東なる
善提野の原のかけろいて
ただよわたる春の香に
からまつの森萌えそめば
五百の健児集い来る
きりつま高きわが母校

そのかみここを開きたる
文化の跡をたえつつ
いまはうもれしその跡を
わが学び舎にひもとけば
奥羽の山の山風は
米代の瀬に和するなり



北秋田市立鷹巣南中学校



① 昭和22年5月1日
② 101名
③ 本城谷 善直

作詞 佐藤 鉄章
作曲 後藤惣一郎

森吉の峰 空高く
朝な夕なに 色映えて
大地の緑 丘のべに
仰ぐところは 輝く星よ
踏む足音も 理想に燃えて
ともに手とり 山となす

小猿部の流れ 遠く行く
深く豊かに 織りなして
もとは岩間の ひとしづく
芽ぐむところは 清らかな水よ
行手は遙か 希望に燃えて
ともにあゆんで 海となす

日進月歩 盛衰の
人生あらし 吹くとても
逆巻く波も 吹雪く日も
阻むところは 鉄の腕よ
南中の鷹 意気たからかに
ともにのり越え 明日を行く



能代市立朴瀬小学校



① 明治8年5月10日
② 23名
③ 荒木 年行

作詞 朴瀬小職員一同
作曲 大山 会三郎

和順の心と 咲きわたる
高き梅の香 身にうけて
明るく起たん この日頃
朴瀬校に 誇りあり

生新の気宇 みなぎれる
胸のいななき 身にうけて
雄々しく起たん この日頃
朴瀬校に カあり

秋空澄みて 豊かなる
稔りの幸を 身にうけて
感謝に起たん この日頃
朴瀬校に 恵みあり

北風行手に はばむとも
雪の純潔 身にうけて
正しく起たん この日頃
朴瀬校に 望みあり



能代市立常盤小学校



① 明治8年6月7日
② 31名
③ 小林 好人

作詞 五十嵐 謙
作曲 大山会三郎

大空をうつつきよい米代の
かがやく流れに心すまして
学ぶよい子の明るい姿
力あわせてなごやかに
かわらぬみどり香も高く
進む常盤小学校

若杉のこずえ光にかがやいて
のびる姿にひとみをわけて
はげむよい子の明るい姿
心あわせてすこやかに
かわらぬみどりその名も高く
進む常盤小学校



能代市立竹生小学校



① 明治15年9月3日
② 20名
③ 中田 雅

作詞 鷺尾 義直
作曲 小野崎晋三

果てなき広野 日光あまねく
百鳥うたい 千草はもゆる
春たけなわの 学びのそに
ともども摘まん 知識の花を

高なる潮ざい 寄する荒波
海原はるかに 希望は遠し
輝く夏の日 学びの海に
いざこぎ出でん進取の船を

みのる田の面に 黄金波うち
すなごる網に いろくずおどる
ゆたけき秋の タベ楽しく
月にいそむ 学舎の窓

学びの神の みいつを仰ぎ
ただ師と親との み教え守りて
直きは道に 勉め励まん



仙北市立中川小学校



① 明治8年1月
② 30名
③ 堀井 英和

作詞 柴田 正男
作曲 戸沢 繁雄

朝夕のぞむ山々は
平和の光照りにはえる
緑の里のこの庭に
共に励まし我らいそむ
ああわが中川小学校

はるかな峰のかなたから
清く流れる山谷川
ここに涼しくゆあみして
心と体われらきたえる
ああわが中川小学校

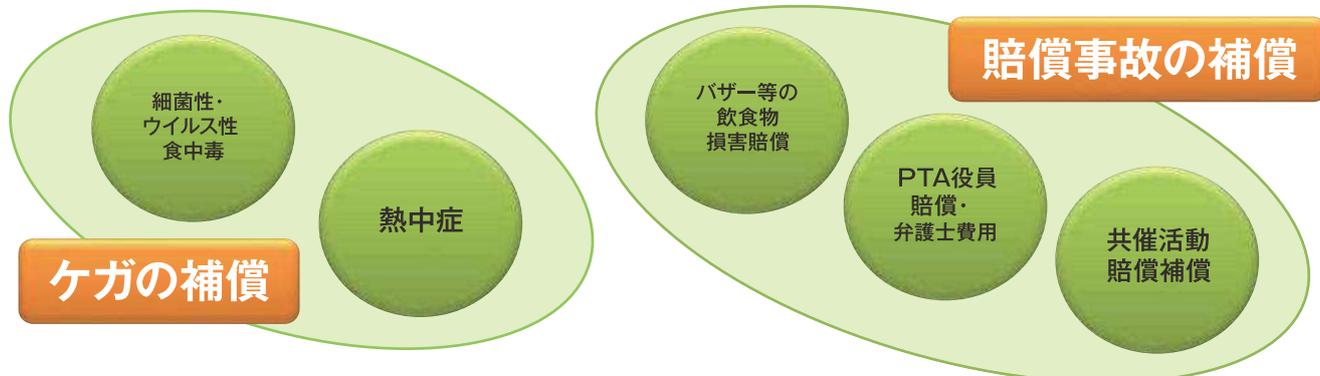
歴史は古く父母の
ま心こもる学び舎よ
今日も楽しく集きて
希望に満ちてわれら伸びゆく
ああわが中川小学校



『児童・生徒・PTA総合補償制度』についてのお知らせ

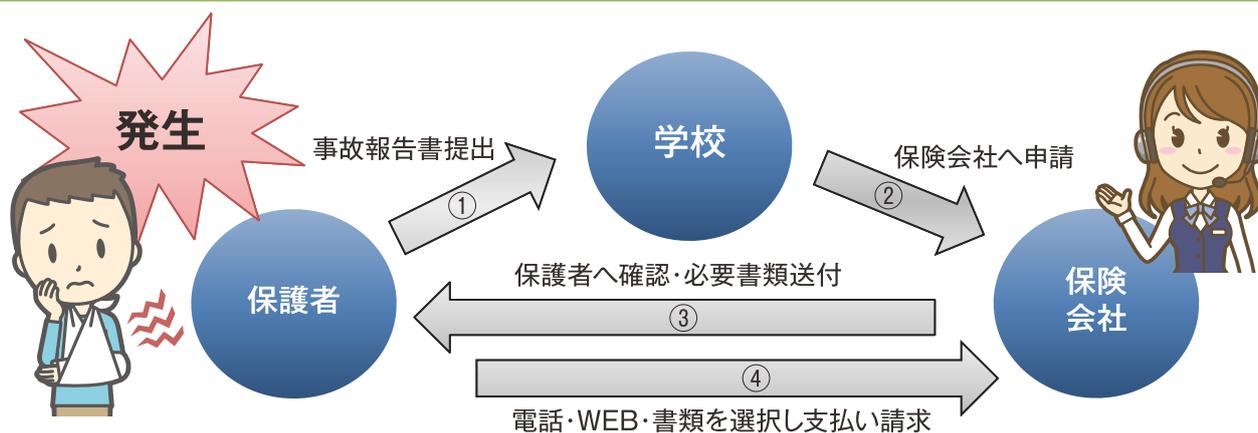
★2020年4月1日より「児童・生徒・PTA総合補償制度」が変わります。★

補償項目が追加されます！



※学校管理下・PTA活動外等の起因により事故対象にならない場合があります。

保険金の手続き方法が変わります！



2020年4月1日からの補償項目・補償内容について

ケガの補償	補償項目	保険金額	
		①学校管理下外(児童・生徒)	②PTA活動中(児童・生徒、PTA会員)
	死亡保険金	100万円	150万円
	後遺障害保険金(障害の程度により)	4万円～100万円	6万円～150万円
	入院保険金日額(180日限度)	1,200円×入院日数	1,800円×入院日数
	手術保険金	入院中 12,000円/入院中以外 6,000円	入院中 18,000円/入院中以外 9,000円
	通院保険金日額(90日限度)	800円×通院日数	1,000円×通院日数

賠償事故の補償	補償項目		保険金額
	PTA活動の遂行に伴う賠償責任 (自己負担額 5,000円)	対人	1名: 3,000万円/1事故: 3億円
		対物	1事故: 200万円
	借用物の損壊等による賠償 (自己負担額 5,000円)	対物	1事故: 10万円 保険期間中: 500万円
	児童・生徒の賠償 (自己負担額 0円)	対人・対物 共通	1事故: 1億円
弁護士相談・クレーム対応費用 (自己負担額 0円)		1事故: 100万円 保険期間中: 1億円	
	付帯サービス	弁護士相談・紹介サービス	

令和元年台風第19号災害義援金について

昨年10月に発生しました令和元年台風第19号災害につきまして、
県内小中学校PTAに義援金のご協力をお願いしたところ、
多くのご支援をいただきました。



義援金 総額 2,804,438円

お預かりした義援金は、被害が大きかった福島県と宮城県に各県
PTA連合会を通じて被災された学校に届けていただきました。
皆さまの心温まるご支援に心から感謝申し上げます。

福島県PTA連合会に	1,602,536円
宮城県PTA連合会に	1,201,902円
合計	2,804,438円



令和
2年度

「みんなで育てる 秋田ふれあい事業」の募集について

令和2年度もPTA行事、PTA内の活動グループが主催する子どもを
含めた事業に予算内で上限5万円の助成を行います。応募要項は、秋田県
PTA連合会のホームページのお知らせをご覧ください。

PTA安全互助事業

PTAの保険は、学校管理下外のケガや登下校中のケガ、PTA行事でのケガ、
賠償事故の補償をしています。令和2年度の補償内容・加入要項を3月に各学
校へお送りいたします。新年度のご加入をよろしくお願いいたします。

令和2年度 PTA研究大会のお知らせ

■第68回日本PTA全国研究大会富山大会

【大会主題】キトキト みんなで とやまなび
～こころが今日も笑顔でありますように～

【開催日】8月28日(金)～29日(土) 【会場】富山市総合体育館 ほか

■第52回日本PTA東北ブロック研究会会津若松大会

【大会主題】希望と創造 集おう！義をつなぐ会津の地へ
～令和を拓く子どもたちのために～

【開催日】9月5日(土)～6日(日) 【会場】会津風雅堂 ほか

■第46回秋田県PTA研究大会かづの大会

【大会主題】奏でよう心のハーモニー 育てよう地域の絆

【開催日】11月7日(土)～8日(日) 【会場】ホテル鹿角

日新火災

必要な備えは、一人ひとり違います。



シンデレラ



三匹の子ブタ



赤ずきんちゃん

日常生活の「まさか」に備える損害保険。
でも、あの童話の主人公たちのように、必要な補償内容は人それぞれです。
そこで、オススメしたいのが日新火災。
お客さまのニーズに寄り添い親切かつ丁寧な対応で、
一人ひとりに合った安心をお届けしています。

お客さまにとって最も身近で誠実な損保へ

秋田県PTA連合会補償制度取扱会社

日新火災海上保険株式会社

北東北事業部秋田サービス支店
〒010-0001 秋田県秋田市中通4-5-2-4F TEL.018-837-5255

詳しくはホームページをご覧ください <https://www.nisshinfire.co.jp/>